



1月号 令和2年1月9日発行

# 菫田小だより

横浜市都筑区菫田南町694番地 [TEL.911-0149]



## 『なぜ』という好奇心をもって、考えること

校長 伊藤 智樹

新年明けましておめでとうございます。今年一年が、皆様にとりまして、健康で充実した時となりますようお祈り申し上げます。そして、本年も菫田小学校教育へのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

### 『好奇心をもって調べていくと、得意なことができ、将来の夢につながる。私もそうだった。好奇心を大事に持ち続けて』

この言葉は、昨年2019年リチウムイオン電池の開発でノーベル化学賞を受賞した吉野彰氏が小中学校向けの講演会の中で話された一節です。

吉野氏が化学に興味をもったのは小学校4年生の時。学生時代に化学を学んだという担任の先生が、イギリスの科学者ファラデーの「ロウソクの科学」をすすめてくれました。その本を読んで『ロウソクはなぜ燃えるのか、炎はなぜ黄色なのかといった内容で、子ども心に化学はおもしろそうだなと思った。』と吉野氏は語っています。『好きこそものの上手なれ。子どもが関心をもつと、どんどん得意になる。』これは私たち教師の仕事の本質についている言葉だと感じます。

また、受賞決定後のインタビューで研究に対する考え方についても発言をされその中で現代の若者が身につけるべき能力について次のように述べています。



『**観察力と洞察力**。観察とは、例えば実験でこうなると理解すること。洞察はなぜ、どういうメカニズムでそうなったのかを考えること。現代社会はインターネットのせいで情報過多の状況にある一方、若者は情報の中身の洞察力を欠いている。ネット社会だからこそ、若者は洞察力を身につけるべきだ。観察力はいわばカメラで洞察力は物が透けて見えるエックス線カメラ。2つのカメラをうまく使ってほしい。』

インターネットやSNSの発達により情報収集や発信は1990年代に比べると格段に便利になりました。子どもたちが活躍する時代は、グローバル化社会、文化も考え方も違う世界の人たちが集まって、地球規模の課題を次々に解決する時代です。このような時代だからこそ、『なぜ』という好奇心をもって、考えることを大切にしてほしいと思います。

下記の文章は、先月号で記載した司馬遼太郎氏の著書『21世紀を生きる君たちへ』からの抜粋です。

君たち。君たちはつねに晴れあがった空のようにたかだかとした心を持たねばならない。同時に、ずっしりとしたたくましい足どりで、大地をふみしめつつ歩かねばならない。  
私は、君たちの心の中の最も美しいものを見つづけながら、以上のことを書いた。  
書き終わって、君たちの未来が、真夏の太陽のようにかがやいているように感じた。

『21世紀に生きる君たちへ』 司馬遼太郎著

輝く“未来”を見るために、輝く未来を創る子どもたちのために、“**学ぶ喜びを知る。自分で考える人になる。たくましい足どりで、大地をふみ歩くこと。**”そのためにも菫田小学校の学校教育目標でもある『つくろう明日 わたしはチャレンジャー』の子どもを

これからも育てていきたいと思ひます。

今年も地域と共に歩み、保護者・地域の皆様から信頼できる学校を目指し、教職員一丸となって努力を積み重ねて参ります。昨年同様、温かいご支援ご協力をよろしくお願いいたします。